

## お薬情報玉手箱 特徴とメリット 簡単メモ

### ・電子お薬手帳の特徴：

調剤・服薬情報をクラウド個人アカウントに長期蓄積し、患者、薬剤師などが参照して、服薬管理、健康づくりに役立てる。お薬情報と検査結果などの情報を連携する電子化のメリットがあり、政府が進める薬局の総合的健康サポート機能を支えるもの。本年度より、調剤報酬の評価対象。

### (詳細:ご参考)

当サービス（「お薬情報玉手箱」）は3年前から、中小薬局のIT化支援を目的に、日本保険薬局協会として検討と開発を促進し、普及を推進してきたものです。この間、協会は厚生労働省とも連携、調整しながら進め、本年平成28年度4月の診療報酬改定により、紙のお薬手帳と同様の機能を有する電子お薬手帳として、紙のものと同様の評価を得られることとなり、薬剤服用歴管理指導料算定の対象となりました。

紙のお薬手帳の機能に加え、「お薬情報玉手箱」は、長年にわたり情報を蓄積し参照することができる、他の健康情報などとデータ連携ができるなどのメリットがある多機能型の電子お薬手帳です。また、患者様の利便性を考慮し、インターネット環境が利用できる環境であれば、パソコン、タブレット、スマホなど利用する端末を選ばず利用できるクラウド型サービスで、特に非常時、災害時にも有用なスマートフォン専用アプリも提供しております。また、運用開始から3年の実績があり、高セキュリティでありながら、薬局側のサービス運用負担や経済的負担も小さなものです。

### ・処方内容の取り込み方法：

#### ① 2次元バーコード読取り

##### (詳細：参考)

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）が公表する「電子版お薬手帳データフォーマット仕様書 Ver. 1.1から2.1によりレセプトコンピューターから紙で印刷される明細書等に印字される服薬情報QRコードを窓口設置型のクライアント端末（WinPC+2次元バーコードリーダーもしくは、iPadのカメラ機能）により、窓口の薬剤師により読取り。

または、スマホアプリの「QR情報読込」機能により、上記で出力されるQRコードを患者自らが読取り。

#### ② 手入力

##### (詳細・参考)

処方薬、一般薬共に、「一般財団法人日本医薬情報センター」の添付文書データベースとの月毎連動。「あいまい検索」により薬剤名候補テンプレートより簡易入力。

#### ③ レセコン連動

##### (詳細・参考)

当社が公開するインターフェイス（JAHIS仕様により、個人情報を除く服薬情報を個人IDに名寄せのうえ、電子ファイルとし直接当社クラウドに送信。）により、薬局レセプトコンピューターから窓口設置型のクライアント端末を経由し、会計後データを直接送信。（レセプトコンピューター側で別途カスタマイズ必要）

### ・その他：

協会が推進する「お薬情報玉手箱」はニッセイ情報テクノロジー㈱が保守、運営を行い、全国の保険薬局566店舗に展開中（平成28年5月現在）。今年度中1,000店舗展開見込み。